

行政 視 察 報 告 書

参加議員	立憲民主・社民会派 蜂名和子、藤田誠、小熊ひと美
調査期間	令和7年10月14日（火）～16日（木）
調査先 及び 調査事項	①山口県萩市 萩市健康維新のまちプロジェクトについて ②福井県福井市 福井市立図書館リニューアルにおけるZEB化の取組について

視 察 概 要	
■ 調査先① 山口県萩市	
■ 調査事項 健康維新のまちプロジェクトについて	
■ 調査内容	
<p>1. 調査日 令和7年10月15日（水）</p> <p>2. 調査目的</p> <p>　　健康寿命延伸はすべての自治体の課題である。</p> <p>　　萩市の「健康維新のまちプロジェクト」は、全国の先例取組として紹介されており、平成29年度厚生労働省「健康寿命をのばそう！アワード」自治体部門優良賞を受賞している。その先例の取組を学ぶため調査に伺った。</p>	
<p>3. 対応者</p> <p>　　萩市保健部健康増進課　課長　恩村　博文 　　市民部市民課　　課長補佐　保健師　佐々木　典代 　　議会事務局調査係　主任　時　健太郎</p>	
<p>4. 説明内容</p> <p>(1) 健康維新のまちプロジェクトとは</p> <p>①創設した背景</p> <ul style="list-style-type: none"> ・萩市の健康寿命は山口県内19市町で最下位だった。（平成22年度） 　　男性 77.02歳（山口県 70.47歳）　　女性 82.57歳（山口県 73.71歳） 　　令和7年8月末時点　高齢化率 45.7% ・健康寿命が短い要因（平成26年11月～） 　　脳血管疾患での死亡率が高い 　　食塩接種、運動習慣の低さ、健診の受診率、血圧コントロールと医療機関へのかかり方などに課題がある <p>②プロジェクトの目的</p> <p>　　「健康寿命の延伸」を目指し、「健康づくり」の大切さを市民に伝えていくには、幅広い分野が協働し様々な機会をとらえることで、より多くの人に浸透していくことが期待できる。</p> <p>③概要と特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> ・萩市役所庁内の各部署横断的な連携プロジェクト会議を設置 　　既存事業に健康の付加価値をつける作業を実施し、令和元年度は、庁内34課120事業延528件の健康関連 	

・健康づくりの再定義作業と協働で生み出す事業

(2) 主な取組について

①広報活動

②調査研究事業（健康長寿促進事業・市民食生活調査）

③節塩プロジェクトの設置（飲食店と協力、広報誌で節塩レシピを連載）

(3) 成果と今後の課題

①厚生労働省「健康寿命をのばそう！アワード」(H29) 受賞で評価された点

・Win Win Win の法則で日常業務の中に、健康の付加価値を生み続ける仕組みづくり

・これまで健康と無関係と思っていた他課の既存事業の中に、「健康づくり」が自動的に推進される仕組みができ、健康づくり無関心層に「健康づくり」が届きやすい環境になった。

②関係課同士の Win Win の関係に留まらず、周囲へと波及していくもう一つの Win を含む Win Win Win の活動に発展している。

(4) 今後の課題

健康寿命は伸びているが、年次によって変化している。

平成 22 年度 男性 77.02 歳 19 位(山口県 70.47) 女性 82.57 歳 16 位(山口県 73.71)

令和 2 年度 男性 79.60 歳 12 位(山口県 79.86) 女性 85.34 歳 3 位(山口県 84.45)

①人口減少、高齢化率の上昇に対応するさらなる協働

②地道な活動と効果検証

③働き盛り世代から始める循環器系疾患予防の取組

④主な取組として、ご当地体操の推進 (YouTube 動画と DVD 制作)、自殺対策の推進、後期高齢者心電図検査モデル事業、高血圧ゼロで循環器系疾患予防のプロジェクト

5. 質疑応答

質問① プロジェクト立ち上げの際に、庁内各部署の理解は得られたのか？

回答① 立ち上げに先立ち、丁寧に説明して回った。

質問② 会議開催はどれくらいか？

答弁② 初年度平成 28 年度は、年 4 回。全庁主管課など 120 名。
その後は年 1 回程度。

質問③ 一般的に「減塩」というが、「節塩」としている理由は？

質問③ 「減塩」だと受ける感じが強いと考え「節塩」にして取りつきやすいようにしている。

6. 所見

健康づくりに関して、保健部局のみならず全庁各部署も関わって取り組んでいる。健康づくりに無関心だった分野や世代に波及していく、新しい発見となった。また、地元事業者との節塩弁当や市民が取り組むご当地健康体操等も参考となつた。

本市における健康寿命延伸政策の具体的な例として提言していきたい。

視 察 概 要	
■ 調査先② 福井県福井市	
■ 調査事項 福井市立図書館リニューアルにおけるZEB化の取組について	
■ 調査内容	
<p>1. 調査日 令和7年10月16日（木）</p> <p>2. 調査目的 福井市は、福井市立図書館をリニューアルするにあたり、組織一体で推進する迅速かつ効果的なZEB化を進めたことから、その取組を学ぶため調査に伺った。</p> <p>3. 対応者 教育委員会 福井市立図書館 館長 横山 尚永 建設部 建設事務所 営繕課 課長補佐 田河 義崇</p> <p>4. 説明内容 福井市では、令和3年3月24日にゼロカーボンシティ宣言を行い、第4次福井市環境基本計画で、「未来へつなごう 環境にやさしい持続可能なまち・ふくい」の実現に向けた施策や指標の設定等の見直し改定を行った。その中の「福井市エコオフィスプラン」（令和3年度～令和7度）において、新築または改築する施設についてはZEB・ZEHの導入を検討することとなった。</p> <p>(1)市立図書館リニューアル事業の経過 建築から40年以上が経過し、老朽化した市立図書館の改築が課題となる中で、「福井市立図書館リニューアル事業」が立ち上がり、平成29年度の利用者アンケートを経て、耐震補強を含む大規模改修及び増築が検討された。平成31年に基本計画が策定されたが、大雪のための資金不足で計画は2年遅れ、令和4年9月に建築工事等着工、令和5年12月に建物が完成し、令和6年5月に開館の運びとなった。総事業費は約23億7千万円となった。</p> <p>(2)ZEB化推進の経緯と実績 「福井市エコオフィスプラン」に沿って福井市立図書館のZEB化を進めるにあたり、省エネ基準のみのZEB Ready（ゼブ・レディ）、省エネ+創エネ基準のNearly ZEB（ニアリーゼブ）及びZEBの3つの基準のうち、福井市立図書館では省エネでエネルギー量を50%減らすとするZEB Ready（ゼブレディ）を採用。これにより概算事業費は5700万円の増となるが、ランニングコストが533.5万円の減となり、約17年で回収可能と試算。建物耐用年数50年では、15年周期の設備更新費用を加味しても1億1700万円安価となると試算した。ZEB仕様へリニューアル後の電気料は、通常仕様と比較して、年間811万</p>	

円の減という実績となった。

(3) 館内で使用される主な省エネ建築・設備

- ・高効率マルチエアコン
- ・断熱材 屋根：通常25mm→100mmへ変更
壁：通常25mm→60mmへ変更
- ・窓 空気層を含むLow-E複層ガラス＝二重フィルムで輻射熱削減
- ・換気 インバータファン→全熱交換器、温湿度連動制御
- ・LED照明（人感センサー・明るさセンサーつき）
- ・屋上で太陽光発電（10kw）

(4) 福井市のその後の取組

- ・福井市南消防署 ZEB Ready（ゼブレディ）
- ・九頭竜中学校 ZEB Ready（ゼブレディ）
- ・福井市新ごみ処理施設 Nearly ZEB（ニアリーゼブ）

5. 所見

福井市立図書館の館内は、リニューアル前の姿を残しながらも、大きな窓とLED照明で非常に明るい印象で、市民にも、明るくて利用しやすく便利だと好評のようだった。

福井市立図書館のZEB化を踏まえたリニューアルにあたっては、県のゼロカーボンシティ宣言のあと、市長自身の意向もあって実現したとのことだった。

福井市立図書館のZEB化によって前例ができ、次の計画も身構えることなくZEB化できることがわかったとのことで、50%の削減というが、実際にやってみて、現在の設備性能ならすでに30%は削減されるので、50%の削減もそれほど難しくはなかったという担当職員の言葉が印象的だった。

本市でも、公共施設でのZEB化推進を進める際の具体的な例として、政策提言をしていきたい。